

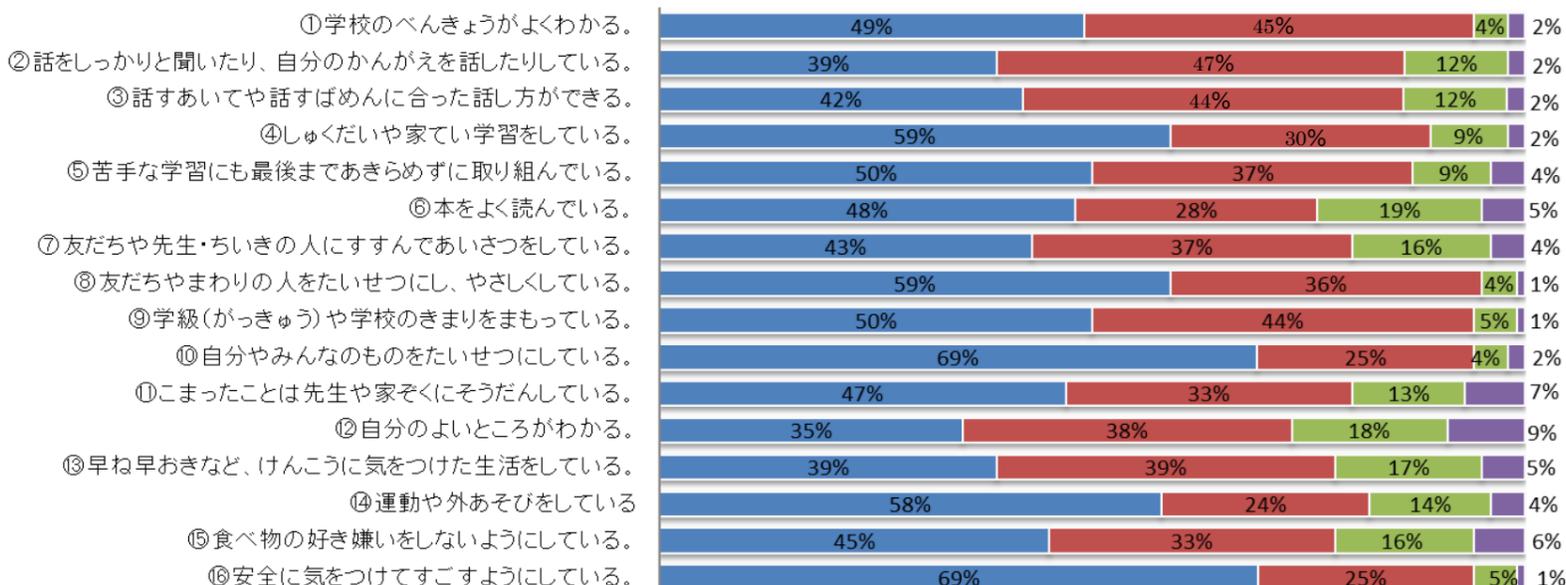


令和6年度前期のふりかえりアンケートを実施するにあたり、保護者の皆様にはお忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

児童・保護者・教職員、それぞれが現状をふり返し、自己評価を行いました。その結果をもとに、今後の朱雀第八小学校の教育活動にいかしていくため、集計・分析・考察をしましたので、ご報告をします。

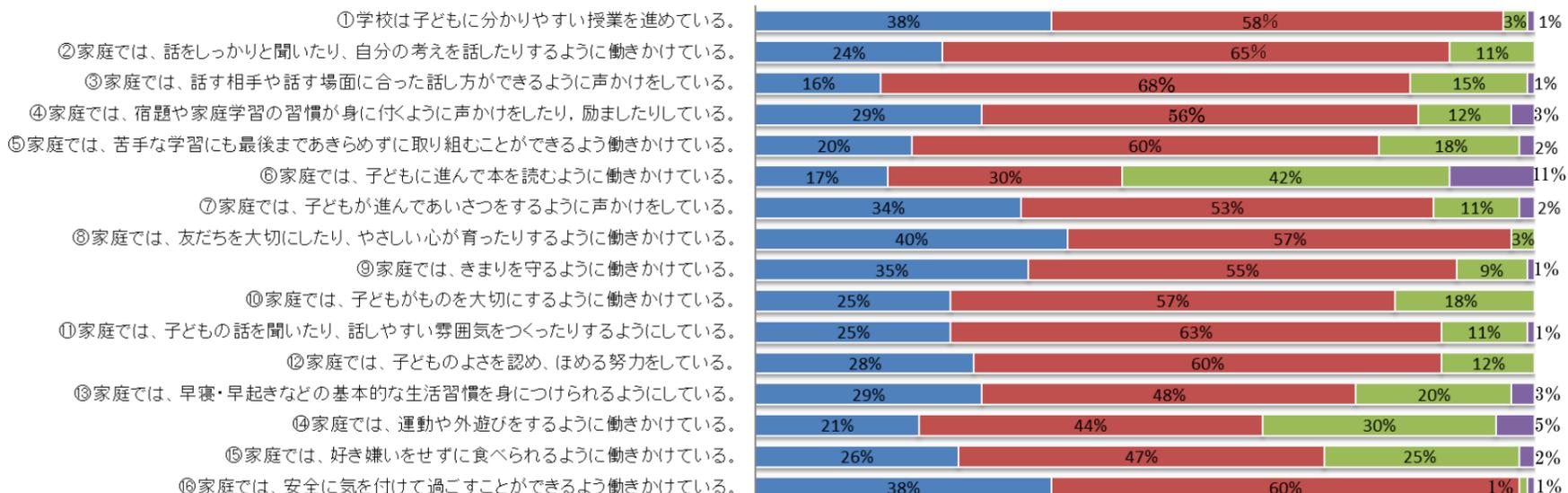
令和6年度前期 ふりかえりアンケート（児童）

■ よく出来ている ■ 大体出来ている ■ あまり出来ていない ■ 出来ていない



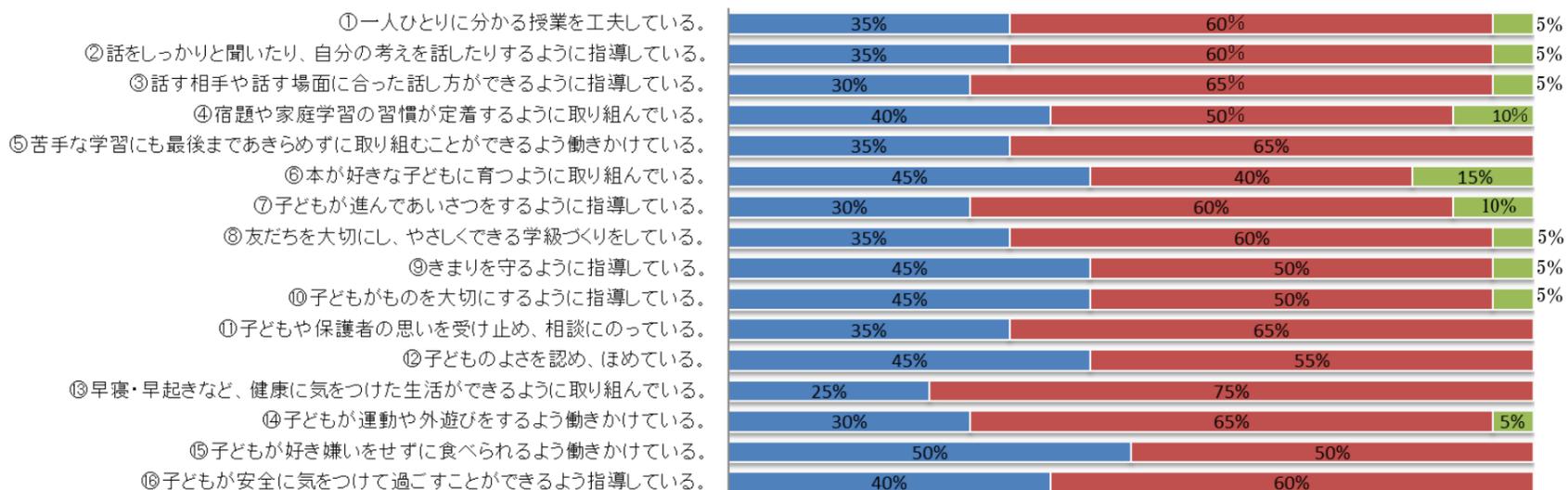
令和6年度前期 ふりかえりアンケート（保護者）

■ よく出来ている ■ 大体出来ている ■ あまり出来ていない ■ 出来ていない



令和6年度前期 ふりかえりアンケート（教職員）

■ よく出来ている ■ 大体出来ている ■ あまり出来ていない ■ 出来ていない



○ ふりかえりアンケートは児童・保護者・教職員がそれぞれの立場で自己評価を行い、それぞれの項目に対する意識の数値化を行っています。その結果から傾向をとらえて、朱雀第八小学校の学校教育に生かしていくものとしています。自由記述欄には貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。いただきましたご意見のすべては全教職員で共通理解しています。現在のよい取組を大切にしながらも改善すべきことを真摯に受け止め改善に取り組み、より一層充実した教育活動が実践できるよう、全教職員で取り組んでいきます。

<確かな学力に向けて>

重点目標【1 子ども一人ひとりが課題解決に向けて主体的に学ぶ力を伸ばす 2 対話的な学びを通してコミュニケーション能力を育成する 3 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す】

①「授業理解」に関する項目

児童 94% (-1)、保護者 96% (+1) が学校の学習がわかるとする肯定群を選択しています。どの教科においても、学習の「めあて」を明確にし、見通しをもって学習し、「ふりかえり」を行うといった学習方法を進め、それによって「何ができるようになったのか」「何がわかったのか」「次は何をしたいのか」等、自分の学びを実感することで、主体的な学びにつながる授業の展開に努めています。学年内での交換授業や専科教員による協力指導、外部講師を招いての特別授業等も進めています。また GIGA 端末を使って、情報の収集・取捨選択を行い、自分の考えを表現することや交流することが活性化し、理解を深めてきています。全国学力・学習状況調査やジョイントプログラムテストの結果分析から見ましても、学力の向上が見られています。一方で否定群の回答を 6% の児童が選択しています。「わからない・できない」を決してそのままにするのではなく、個に寄り添う指導・フォローを丁寧にやっていきます。振り返り学習（ミライシード）なども活用し、基礎基本の学力を確実に身に付けることができるよう取り組んでいきます。

②「話す・聞く」 ③場面にあった「話し方」に関する項目

②の項目に関しては児童 86% (+2) 保護者 89% (+1)、③の項目に関しては児童 86% (-3) 保護者 84% (+3) が肯定群を選択しています。今年度、本校では「対話力を育てる指導の工夫」を研究主題とし、取組を進めています。友だちや先生とのかかわりを深めることで、一人ひとりの子どもたちがより主体的に学ぶ姿を目指しています。どの学習においても自分の考えや思いを伝える場面を意図的・計画的に取り入れています。ペア・グループトークの中では意欲をもって発表や表現できる児童も多い一方で、自分の思いや考えを表現することに苦手意識のある児童もいます。信頼関係がある話しやすい雰囲気・クラス作りに努め、児童の苦手意識をなくしていきたいと考えています。「聞く」ことについても今後も丁寧に指導をしていきたいと考えています。相手の思いや考えを受け止め尊重し、共感することや理解することで、より良い人間関係を築くための力をつけていきたいと考えています。相手や場面に応じた話し方については、規律のある学級・学校を目指す中、様々な学習活動の中で表現の機会を増やし、適切に指導を進めていきます。

④「家庭学習」に関する項目

児童 89% (-3)、保護者 85% (-5)、教職員 90% (-5) ができているとする肯定群を選択しています。前回の調査と比べ、三者に数値の低下がみられました。家庭学習が定着できるよう、休み時間や放課後を使って個別にサポートをしています。家庭学習については、低学年を「家庭学習の習慣づけ」、中学年を「家庭学習の定着」、高学年を「自学自習の確立」とし、学習時間は学年×15分を目安としています。家庭学習の習慣が身につけていることが中学校に向けて大切となります。ご家庭での日々の働きかけ、ありがとうございます。さらに学校での学習を定着させ活かせるようにするためにも、ご協力と励ましをお願いします。

⑤「あきらめずに取り組む」に関する項目

児童 87% (-2)、保護者 80% (-5) ができているとする肯定群を選択しています。あきらめずに取り組む意欲を持続させるために、「これならできる」「ここまでならできる」とするスモールステップを設定し、達成感を味わうことで養っていききたいと考えています。一人ひとりの状況を丁寧にみとりながら、児童が努力してきていることをしっかりと褒めること・認めることを大切にしていきたいと思えます。

⑥「読書」に関する項目

児童の 76% (+1)、保護者 47% (+3) ができているとする肯定群を選択しています。朝の読書活動では物語の世界を楽しんでいたりと、授業中には辞書や図鑑、また GIGA 端末を使って調べ学習をしていたりと、読むことに親しんでいる様子が見られています。週に一度は隙間の時間を使って、図書室を利用して貸し借りをしたり、学級文庫の拡充を進めています。今年度も読みかたりボランティア「じゃんけんほん」の皆様にはたくさんのご支援をいただいております。毎週火曜日朝の読みかたり、学年ごとのロングじゃんけんほん、学年への授業関連図書配架等、朱八校の児童のために本当にありがとうございます。

<豊かな心について>

重点目標【1 社会性を身に付け、自尊感情を高める人間関係づくり・集団作りに努める 2 子どもの規範意識を高め、子どもが安心して学べる学校づくりを進める 3 道徳教育の充実を図る】

⑦「あいさつ」に関する項目

児童の 80% (-4) ができているとする肯定群を選択しています。あいさつは相手を思いやる気持ち、相手の存在を認めていることを相手に積極的に伝える大切なことです。コミュニケーションの入り口として、声を出してあいさつができなくても、笑顔になる、会釈する等から始めていくことができるよう声かけをしているところです。今年度もあいさつの大切さと気持ちよさを体感するためにも、児童会を中心にあいさつ運動を進めていきます。

⑧「やさしさ」⑨「きまり」⑩「ものを大切に使う」に関する項目

これらの項目では、9割以上の児童ができているとする肯定群を選択しています。集団生活・社会生活の場である学校では、自分だけではなく他者とのつながりを意識し、よりよい人間関係を築けることを意識して指導を進めています。児童の様子を見ても、学年を超えて優しく声かけあう姿が見られます。たてわり活動においても遊びの中でほほえましい姿があらわに見られます。地域やご家庭での働きかけの力が大きいことを感謝しています。人権教育「なかまの日」の取組では児童の実態や発達段階に応じた学習内容を工夫し進めています。月ごとのテーマに沿って、同和・外国人教育・男女平等・生徒指導・総合育成支援・健康教育について、生徒指導部・人権部、児童会等と連携し、学習を進めています。それぞれの授業においては、子どもたち自身による友だちとのかかわり「協力」「参加」「体験」を取り入れ進めるよう工夫をしているところです。一人ひとりが自ら考え行動する力が身につくよう取り組んでいきます。

⑪「相談」に関する項目

児童 80% (-2)、保護者 88% (-4) ができているとする肯定群を選択しています。そして 20% (+2) の児童が、できていないとする否定群を選択しています。この結果を改善できるよう、話しやすい雰囲気、人間関係を築くよう心掛けるとともに、担任と児童一人ひとりが話す特設時間である「あのねタイム」や休み時間・放課後も活用し、信頼関係のある学級、学校をつくることのできるよう努めていきます。また学級担任だけでなく複数の教職員が児童の情報を共有し連携しあって支援していきます。困りごとを一人で抱え込むのではなく、一緒になって考えることが、視野も広がり改善策も見つかる、相談することの大切さについてもしっかりと伝えていきたいと思えます。

⑫「自尊感情」に関する項目

児童の 73% (±0) ができているとする肯定群を選択しています。自尊感情は、自分を好きだという気持ち、大切に思う気持ちです。また自分が好き、自分が大事と感じられることで、人に目を向け、人を大切にできると考えます。自分をありのままに受け入れて認めることができるよう、子どもたち一人ひとりのよさを伝えていきたいと考えます。学習場面では自分の学びや成長を意識できる場を設定するとともに、一人ひとりの児童が安心して、ありのままの自分でいられる場、他者に認められる場としての学校・学級作りを一層進めていきます。また、折に触れ子どもたちのよさを丁寧に伝えていきたいと考えています。

<健やかな体について>

重点目標【1 運動やスポーツの実践と体力の向上 2 保健教育の充実 3 安全教育の充実】

⑬「基本的な生活習慣」に関する項目

児童の 78% (±0) 保護者 77% (±0) ができているとする肯定群を選択しています。できていないと回答した児童も多く、学校でも朝から眠そうな児童が見受けられます。またマイタイムデーの調査ではゲーム機や PC、スマホ等の利用時間が年々伸びていることがわかります。学習、健康、依存症問題など様々な観点から、ゲームや SNS の時間が長くないよう、学校でも指導していきたいと思えます。つつい利用する時間が長くなりがちですが、約束事をきちんと守ることができるよう、ご家庭におかれましても声かけをお願いします。

⑭運動・外遊びに関する項目

児童 82 (±0)、保護者 65% が (±0) ができているとする肯定群を選択しています。体づくりや体力向上の観点から、体育学習や保健指導を中心に、体を動かすことの大切さを伝えていきたいと考えます。また、休み時間を活用した学級遊び等を通して、集団遊びの楽しさを味わうことから積極的な運動につなげたいと考えます。学校では完全下校・雨天の日を除いて、年間を通して放課後 16:15 まで校庭を開放しています。友だちとのつながりを楽しみ、体を動かすことの楽しさを味わうことができるよう働きかけていきたいと考えます。

⑮偏食に関する項目

児童 78% (-5) ができているとする肯定群を選択しています。食は体づくりの根幹です。学校では給食指導だけでなく、食への関心を高めるために食育の指導を栄養教諭を中心に行っています。そして、友だちと一緒に食べる給食を通して、食べることの楽しさを味わえるよう工夫しています。苦手な食べ物を食べるよう無理強いすることはできませんが、実際、苦手な食材でも給食なら食べられるという児童も少なくありません。幼少期の今、一つ新しい味を知ることで、豊かな食の世界がどんどんと広がっていきます。食べることが好きになり、豊かな食生活を送るためにも、この時期の食事は大切と考えます。

⑯安全に関する項目

児童 94% (-2) ができているとする肯定群を選択しています。児童も常に安全を意識して行動し、ご家庭でも指導して下さっていることがわかります。自分の身を守る、命を守ることは最優先課題です。しかし、私たちが遭遇するかもしれない危険は実に多種多様であり、いつどのような形で、危険にさらされるかわかりません。学校では年間 4 回の避難訓練や多様な安全指導・訓練、事故防止のための教職員研修を行っていますが、さらなる充実を図っていききたいと考えます。また、PTA、各種団体の皆様における登下校の安全への働きかけとご協力、子どもたちの為に、いつも本当にありがとうございます。